

平成28年10月30日
今週のベストショット



奈多グラウンド 三苦フレンズ 対 レッドサンデーズ戦

レッドサンデーズ新旧の二人が急遽バッテリーを組んで見事勝利。神田捕手(左)と古賀開投手(右)

写真：塩浜ジャガーズ 岩崎光洋

奈多グラウンド あわや・・・。

三苦フレンズ (2勝8敗1分) 0 2 2 1 0 0 5 生野●ー西山

レッドサンデーズ (2勝7敗2分) 2 5 1 0 0 × 8 古賀(開)○ー神田

HR：野々下、嶋村(レッド) 2BH：野々下(レッド) 肥喜里、佐藤(三苦フ) 盗塁：川原(正)

ここまで共に7敗と調子の上がない両チームの対戦となったが、先手を取ったのはレッドサンデーズ。初回一死後川原(正)選手が四球で出塁すると、すかさず二盗。得点圏に進んだ走者を四番の野々下選手が二塁打で返し、早々に先制する。勢いに乗るレッドは、続く二回にも野々下選手の3ランを含む打者9人の攻めを見せ、5点を追加し、試合の流れはグッとレッドに傾いてしまう。意気消沈しかけた三苦フレンズだったが、七番寺山選手の今季初ヒットがベンチの雰囲気を変えた。コツコツと得点を重ね、3点差まで追いつけていく。そして72分が経過し最後のイニングとなる六回表、フレンズ攻撃陣も簡単に二者が倒れ、一番吉村選手の打球もレフトライナーで万事休す・・・と思われたが、レフト梅野監督がまさかの落球。続く西山選手がレフト前ヒットを打ち、迎えるは三番生野選手。本塁打が出れば同点の場面となり、この試合の最後に最大のヤマ場が訪れる。息詰まる勝負となったが、最後はレッド古賀(開)投手がセンターフライに打ち取り、熱戦に終止符をうった。選手も審判も、観客も盛り上がる試合となった。両チームの次戦に期待したい。

(記事：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦、写真：岩崎光洋)



二回裏、3ランを放ち迎えられるレッド四番野々下選手。



三回裏、代打HRを放ったレッド嶋村選手。



二回表、サード内野安打のフレンズ田中選手。



遅ればせながら今季初ヒット！寺山選手。



フレンズで最も輝いていた寺山選手。



勝利を挙げたレッドサンデーズ古賀開一神田バッテリー。

雁レク4 毎回の12奪三振によりサンデーズ快勝

新町パイレーツ（3勝8敗） 000010 1 砂場○、木下一宮口

奈多サンデーズ（8勝3敗1分）13002X 6 八坂●—三重野

初回安定した立ち上がりを見せる奈多サンデーズ砂場投手に対し、制球に苦しむ新町パイレーツ八坂投手は一死満塁のピンチを招くがなんとか1点で切り抜ける。二回もサンデーズは攻撃の手を緩めず四球から連打を重ね3点を追加する。四回までノーヒットピッチングをしていた砂場投手だったが、自らのWPにより惜しくも記録を逃す結果となった。パイレーツも鋭い打球があったが、サンデーズの好守に阻まれ最後までヒットを出す事が出来なかった。（記事・写真：三苦ホーネッツ 廣木俊輔）



好投の奈多サンデーズ砂場投手。



制球に苦しんだパイレーツ八坂投手。



最終回、ストッパーの木下投手。



最後はサンデーズ田中俊弘監督の好守でゲームセット。



1点は取られたが、ノーヒットリレーの砂場投手（右）と木下投手（左）。

青松園B 三回裏の集中攻撃でソルトベ이스ターズの勝利！！

三友クラブ (6勝6敗) 0 1 0 1 0 0 2 足達●—谷崎
ソルトベ이스ターズ (1勝10敗1分) 1 0 6 0 1 × 8 小山○—酒井

2BH: 小山(ソルト) 盗塁: 中村(健) 3(ソルト)

三友クラブは初回、先頭の大坪選手がセーフティバントで出塁後、二番山本、三番福井選手が凡退するが四番谷崎選手の左前打で二死一三塁とする。続く松尾選手の先制打に期待がかかったがここは二ゴロに倒れ無得点。対するソルトは先頭中村(健)選手が四球を選び出塁すると盗塁と相手バッテリーのミスで無死三塁と絶好のチャンス。続く二番の石井選手が犠飛を放ち幸先よく1点を先制する。三友クラブは二回、六番広瀬、七番駄原選手と凡退するが八番坂本選手の打球が相手二塁手の失策を誘い、出塁に成功する。さらにこの後バッテリーエラーが続き三塁まで進塁すると九番安永選手の遊撃手への打球がまたしても失策を誘いこの回無安打で同点に追いつく。二回裏、三回表は両投手が踏ん張り無得点であったが一番の中村(健)選手から始まるソルトの三回の裏の攻撃がビッグイニングとなる。振り逃げで出塁した中村(健)選手は二盗三盗と快速をとばし、無死三塁。続く石井選手の打球を三塁手が失策し追加点をあげた。さらにここから四番小山選手が二塁打のあと五番中村(耕)、六番酒井、七番田中選手の連続安打と打者一巡して一番中村(健)選手が今度はきっちり中前打を放ちこの回計6得点をあげる。このあと両チーム1点ずつ追加するが結局三回に大量得点をあげたソルトが勝利した。三友はいつになく制球に苦しむ足達投手と失点に絡む失策が目立ちはしたがソルトの一回に5安打を集中させた攻撃を称賛したい試合であった。(記事: 奈多フェニックス 実延新伍、写真: 太田敏治)



試合開始！！さあ、勝つぞ～！



ソルト先発の好投手 小山投手。



三友クラブのエース、足達投手。



三友クラブ四番谷崎選手対小山投手！



一回裏、ソルト中村（健）選手、先制のホームイ



二回表、三友クラブ坂本選手同点のホームイン！

青松園A 終盤に追い上げを見せるも・・・

ブルーマーリンズ（4勝6敗1分）00131 5 林●、佐藤ー横山（健）

三苦三球会 （5勝7敗） 6100× 7 吉留○ー藤澤

HR：佐藤（ブルー） 大津（三球会） 2BH：横山（健）（ブルー） 盗塁；大津（三球会）

三苦三球会は一回裏、先頭の一番原口選手が四球で出塁すると二番藤澤選手の右前安打で無死一二塁の好機で三番大津選手に打席がまわる。すると大津選手は見事左中間を破る本塁打を放ち幸先よく3点を先制。その後も四番濱口選手から八番渡辺選手まで五者連続安打で3点を追加し、この回三球会は一挙6点を奪う。三球会は続く二回裏にも1点を追加し序盤から7点とブルーマーリンズを大きく引き離す。しかし、例年であればこのままずるずるといってしまうのだが、今年のブルーマーリンズは一味違う。ブルーマーリンズ小柳監督は三回から林投手に代えて佐藤投手を登板させると三、四回を無失点に抑える好投を見せる。するとブルーマーリンズは三回表に二死満塁から六番林選手の押し出し死球で1点を返すと、四回表には二死一三塁から三番佐藤選手の本塁打で3点を奪う。そして五回表の最終回二死ながらも一二塁とすると一番横山（健）選手の左翼への二塁打で1点を返す。しかし2点差まで詰め寄るも、反撃はここまで。三球会が序盤の貯金でなんとか逃げきった。敗れたブルーマーリンズは終盤に追い上げ、粘りを見せたがあと一歩及ばなかった。

（記事・写真：雁の巣ライナース 明瀬 旭）



試合開始の整列。



完投勝利の三球会吉留投手。



ブルーマーリンズ先発の林投手。



一回裏、三球会二番藤澤選手、右前安打でチャンスを広げる。



一回裏、先制の3ラン三球会三番大津選手。



技ありの右前安打三球会五番堺（太）選手。



二回を投げ無失点の好投Bマーリンズ二番手佐藤投手。



四回表、3点差に詰め寄る3ランを放つ三番佐藤選手。



五回表、適時二塁打を放つBマーリンズ一番横山（健）選手。



吉留投手、最後は二塁ゴロで締める。

第21週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

第21週、10月30日は4試合が行われました。

奈多グラウンドの三苦フレンズ対レッドサンデーズ戦は、同点に追いつかれた二回裏レッドは久しぶり登場の野々下選手が3ランを放つと、三回裏にはこちらも久しぶり登場の代打嶋村選手がソロHRを放ちフレンズの追撃を振り切り5-8で勝利。新人古賀開投手も初勝利。

雁レク4の新町パイレーツ対奈多サンデーズ戦は、サンデーズ先発砂場投手が前回の反省から安定した投球を見せ、毎回の11奪三振、1失点。最終回は木下投手が三者凡退（1三振）に取る無安打リレー。打ってはパイレーツ八坂投手の四球に乗じて6安打で6点を挙げ、1-6の勝利。

青松園Bの三友クラブ対ソルトベイスターズ戦は、同点で迎えた三回裏、ソルトは一番中村健一選手の降り逃げからの2盗塁を足掛かりに四連打などで一挙6点を奪うと、後は1点ずつ取り合いソルトが2-8で今季1勝目。投げてはソルト小山投手が三友クラブ打線を3安打に抑えるナイスピッチング。

青松園Aのブルーマーリンズ対三苦三球会戦は、一回裏三球会は無死一塁から三番大津選手の3ランを含む七連打で一挙6点をリードすると、二回にも1点。しかし三回表からブルーマーリンズの反撃。三番佐藤選手のHRなどで2点差まで追い上げるも5-7で三球会が逃げ切った。

プロ野球は北海道日本ハムファイターズが広島カープを4勝2敗で下し、10年ぶりの日本一となりました。

10年前、2006年の日本ハムの優勝は、新庄選手が引退をシーズン早々に発表し、それに選手たちが奮起しての優勝でした。

シーズン最終戦でのプロ野球で初めてつけた背番号63での出場や、その後のユニフォーム下のTシャツのコメントなどが話題を呼び、日本シリーズでの優勝を決めた瞬間にレフトで抱き合っ、選手たちがみんなで迎えに行き、監督より先に胴上げされるなど一年が新庄色に染まっていました。

今年の日本シリーズは広島・黒田投手の衝撃の引退発表からはじまりました。

第三戦で大谷選手を打ち取ったところで足の痙攣でマウンド降りた黒田投手。

おそらく誰もが第7戦で大谷投手との投げ合いを期待したと思いますが、非常にも第7戦は巡って来ませんでした。

しかし広島カープは25年ぶりのリーグ優勝、32年ぶりの日本一まであと一步という結果で、来年への期待が高まりましたね。

広島・黒田投手の生き様を胸に来年も活躍してくれることでしょう。

ただ、この広島快進撃の裏には、資金面では厳しい市民球団を盛り上げる広島市民、球団スタッフ、裏方の支えが欠かせませんでした。

そういう人たちがいたからこそ選手は伸び伸びプレーが出来たのだということ。

WSLで試合ができるのもそういう支えになる人たちが居るからこそだと思います。

今チームのために、リーグのために何が出来るかを考えて行動できるWSLでありたいですね。